

公園内で見られる植物

写真は1月14日(祝)
2月23日(土)
自然観察会で見られた
植物等です



スギ (スギ科)

今年も花粉の季節になりました。条件反射でしょうか？写真を見ただけでくしゃみと鼻水がでそうです。今年は、例年になく山陰地方は多いとの事ですが……



ネジキ (ツツジ科)

冬芽を付けた赤くて美しい枝は花材として重宝します。名前の由来は樹皮がねじれたように見える事によります。花は小さく鈴なりになっていて形がご飯粒に似ていることから「飯粒の木」と呼ぶ地方もあります。



ヤマモモ (ヤマモモ科)

初めて幼木を見ました。写真で見ると草のように見えますよね。10 cmに満たない長さの葉です。若木では不規則な鋸歯が出る事が多いそうです。近くにあるヤマモモの種が発芽したのでしょうか。頑張っって育ってね。



アセビ (ツツジ科)

アセビは白い花が多いのですが、これはピンク色、園芸種でしょうか？庭木として好んで植えられますが、動物は良く知っていてこの葉は食べません。かつて、葉っぱを煎じて殺虫剤にしていたそうです。



コショウノキ (ジンチョウゲ科)

枝先に付いた花はかすかな良い香りがします。名前からすると辛そうですね。私は実を食べた事はありませんが辛いそうです。でも、6月頃赤く熟した果実は有毒だそうなので、試さないで下さいね。



クスノキ (クスノキ科)

葉脈がよくわかりますね。葉の付け根にはダニ室があり、入口の大きいのと小さいのがありそれぞれ違う種類のダニが住んでいます。クスノキにとって有害な虫えいの形成をするダニの増殖を抑える働きをしていると考えられています。特に、乾燥した葉を揉んで嗅いでみると樟脳（ショウノウ）の香りがします。防虫効果があります。



クロキ (ハイノキ科)

モチノキ・ネズミモチ・クロガネモチなどの葉によく似ていますが葉の縁にギザギザがある点が異なります。春に開花するのが基本ですが株によっては秋に色違いの花を咲かせるという風変わりな性質を持っています。春の花は白や薄緑色ですが、秋の花は紫色になるものが多いです。年に2回咲くって得をした気がしますね。



カクレミノ (ウコギ科)

日陰でも育つので北側の小スペースによく植えられています。カクレミノでかぶれることがあるのは、ウルシオール成分が含まれているからです。全縁と3裂した葉が混在していますが、昔3つに裂けたものあるいは5つに裂けたものは、神に供え物をする時に酒やご飯を盛り入れる器として使われていたそうです。神社の隅に植えてあったのを思い出します。



オウレン (キンポウゲ科)

古くから胃腸薬として知られています。根茎は漢方の「三黄丸」などの生薬として用いられます。黄色いひげ根をだして連なって伸びていくことからこの名（黄連）が付けられたようです。